


## 小学校・中学校の事例 ～解散・お金・卒業対策の見直し～

- 見直しに至った背景
- お金の整理
- 活動の再設計

 「続ける以外の選択肢」を考えるヒントに

和田 美智子 氏

# PTA・保護者会のお金について

## 小学校の事例

- コロナ禍を経て、PTAから保護者会へ移行
- PTA時代の組織編成を変更し、必要最小限の組織へ（本部、ボランティアのみ）
- 旧PTAバレーボール、卒業対策委員は保護者会と別で組織  
→「学校及び全ての子供への支援」という理念から別管理とした。
- バレーボールは有志により活動継続。費用や各種調整はその他クラブチームと同様
- 卒業対策委員は学校より6年生保護者へ声かけを行い、有志を募る形へ移行。費用の徴収や内容の調整などは、有志で実施。

保護者会費は、基本的に学校全体にかかる活動及び児童支援の費用として徴収し執行するため、その他の活動とは弁別して管理

## 中学校の事例

- PTAから保護者会を経て、今年度より組織として活動せず、有志による保護者代表として学校支援に当たる形態
- 組織の体をとらないため、会則をなくし、会費の徴収もなし。
- 部活動支援の有志組織が別に存在するため、部活動支援にかかる費用は、そちらで徴収している。
- 卒業対策にかかる費用は、学校より教材費としてまとめて徴収する方向
- その他ボランティアはボランティアコーディネーターから募集を実施
- 保護者代表としてはコミュニティスクール参加や適宜の学校側との意見交換会を開催予定

全保護者の代表として位置し、組織の体をとらない形で活動をしているため、会費の徴収等は実施しない。